

	が、いかに持続できるかは、定期的な健康教育が望まれるところである。	
今後の課題	継続的に健康への意識を高めていける健康教育のありかたについて、学校との連携が不可欠である。	
キーワード	食生活改善推進委員	■食育の推進
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 25年以上継続して実施している事業の成果をさらに発展させようとする試みである。既に効果の確立された手法を確実に展開する姿勢は保健事業を進めていく上で非常に高く評価できる。また、今後の課題についても充分検討されており、将来における事業全体の見直しの可能性を考慮していることは特筆に値する。</p> <p>エビデンスは？— 事業の評価を行う上で、既存の知見に基づく仮説を構築しており、この事業の成果を評価することによって新たなエビデンスが加わることが期待できる。(ST)</p>		



湯川村保健センター：将来に有効な歯みがき技術の獲得		
〒969-3544 福島県河沼郡湯川村大字清水田字川入 9 番地 (TEL) 0241-27-3110、(FAX) 0241-28-1055		
人口 3,722 人(出生数 40 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	小学校における歯科健診結果を見ると、すでに歯周病と呼ばれる歯肉炎を起こしている児童が多く、その数は高学年になるほど多くなっている。	
提案者	母子保健担当者 その他(臨時歯科衛生士)	
事業のねらい・目標	上記歯科健診結果より、生涯にわたって口腔衛生を自己管理できる有効な年代として(歯列の完成する年代)、小中学校と連携をとり、自分にあった正しい歯磨き技術を獲得させることを目的とする。 ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	なし	
事業内容	対象	学童 思春期
	実施期間	平成 11 年 4 月 ~ 平成 18 年 3 月 7 年計画
	実施内容	1 歯科健診時の個別指導(小学1年~中学3年)春秋2回実施。 CO(初期むし歯)GO(初期歯肉炎)と診断されたものに対し、進行を防ぐために歯科衛生士による指導を行う。 2 学校での昼休み時間における個別指導(小学6年生)ほぼ永久歯が出揃い歯列が完成するこの時期に一人一人の歯型をとり自分の歯列を意識することでどこをどう磨けばよいかを具体的に示唆する。 ■既存事業の工夫
	協力機関	学校
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 歯科医師 歯科衛生士 養護教諭
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	歯科健診時、歯みがき指導を受ける児童・生徒の数が減少する。 12歳の一人平均むし歯数を現在の2、1本から1本以下にする。
キーワード	歯科	

・*・*・ コメント ・*・*・

ここに注目！— 一般的に実施される集団指導の効果をさらに向上させるために、一人一人の歯形を取ることで、より具体的な指導が実践できること。既に実施されている歯科健診の結果から抽出された小学校高学年で歯周病が発生しているという問題点に対して、具体的かつ現実的な対策を実践していることは評価に値する。
エビデンスは？— 具体的な仮説を構築した上で、数値による評価指標を検討しており、この事業の成果を評価することによって新たなエビデンスが加わることが期待できる。(ST)



奥尻町役場 保健福祉課保健指導係 : 歯ッピーキッズ応援団		
〒043-1401 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻 462 奥尻町保健福祉センター内 (TEL) 01397-2-3381、(FAX) 01397-2-4061		
人口 3,800 人(出生数 32 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	①母数が少ない為う歯罹患率の変動が大きい、概してう歯罹患率が全道、保健所管内と比べ高い状況が何年も続いていた。 ②町の北部と南部で2～5歳児のう歯罹患率を比較すると、南部の方が10%以上高い状況が続いていた。 ③健康教室をしても人が集まりにくい為、幼稚園の行事等に合わせて教室を実施してはどうかと考えた。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	①家族、育児者が「生活行動」と「子供の歯の健康」との関連を知ることができる。 ②普段の口腔管理を振り返るきっかけが得られる。 ③北部・南部のう歯罹患率の格差が縮小する。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	その他 (A幼稚園(南部の幼稚園)通園児とその家族)
	実施期間	平成 14 年 6 月 ~ 平成 16 年 10 月 3 年計画
	実施内容	【平成 14 年度】 1 回目:おやつについての講話、スポーツドリンクと同濃度の砂糖水の試飲、ジュースの中の糖分量 2 回目:う歯予防についてのペーパーサート、6 歳臼歯についての講話 3 回目:歯科衛生士による歯磨き指導、染め出し、RDテスト、歯周病についての講話 【平成 15 年度】 1 回目:噛むことの大切さ、歯科衛生士による仕上げ磨き指導 2 回目:歯にいいおやつ紹介、試食、咬合力測定 3 回目:歯医者さんの賢い利用法、歯科医師からの助言 【平成 16 年度】 1 回目:染め出しによる磨き残しチェック、歯科衛生士による仕上げ磨きとデンタルフロスの使い方講座 2 回目:6 歳臼歯についての講話、歯が生え変わる頃の注意点、ワンタフトブラシの紹介と配布 3 回目:子ザルのモンちゃんと学ぶ歯の話(紙芝居&ペーパーサート) ■個別支援や集団支援のツール開発
	協力機関	幼稚園 学校 病院
	住民参画状況	その他(計画案をつくり、幼稚園教諭・小学校教諭・町国保病院歯科衛生士と協議。終了後には同メンバーで反省会を行っている。)
	従事者内訳	保健師 歯科医師 歯科衛生士 養護教諭 その他(幼稚園教諭)
補助金・助成金	なし	

事業の評価	<p>評価指標を事業計画に明示。年度末に集計、評価。</p> <p>①参加数(平成14年度:延べ58名、平成15年度:延べ62名、平成16年度:延べ78名)</p> <p>②おやつアンケート (おやつ摂取行動を調査:平成14・16年度にとり比較。北部の保育所でも行い、北部と南部で比較。)</p> <p>③教室実施後のアンケート</p> <p>④2～5歳児のう歯罹患率と平均う歯数の変化(低下が目標。また、北部・南部の格差縮小も目標)</p> <p>⑤平成13～16年度のA小学校の1年生のう歯罹患率</p> <p>⑥平成13～16年度A幼稚園児のう歯罹患率</p> <p>■今後も継続する</p>
今後の課題	<p>①評価を分かりやすく関係者、地域へ返していくこと。</p> <p>②他の幼稚園・保育所での実施。</p> <p>③A幼稚園での今後の展開。</p>
キーワード	歯科健康教育、う歯予防、幼稚園との連携、養護教諭との連携
<p>*** コメント ***</p> <p>ここに注目！— 既存の統計により、地域の問題点を充分把握した上で事業を計画している点は高く評価できる。事業に参加する住民の立場を重視した実施計画や、結果を関係者や地域へ還元することを意識し、周辺領域への展開も考慮されている。</p> <p>エビデンスは？— 具体的な数値目標が設定されており、既に多くの地域で効果が確立されている事業であることから、エビデンスに基づいた評価が実施可能である。(ST)</p>	

◇ 歯ッピーキッズ応援団 ～ 事業の評価の追加

④2～5歳児のう歯の状況(南北での比較)

①う歯罹患率

	13年度	14年度	15年度	16年度
南部	58.1%	58.0%	47.6%	47.1%
北部	44.1%	45.5%	42.5%	34.8%

②う歯平均本数

	13年度	14年度	15年度	16年度
南部	4.90	2.85	2.78	2.41
北部	3.50	2.20	2.35	1.48

低下と北部・南部での格差縮小がみられます。

⑤平成13～16年度のA小学校の1年生のう歯罹患率

変化はみられず。

中・高学年では10～30%の低下がみとめられる。

全学年では10%程度低下している。



⑥平成13～16年度のA幼稚園児のう歯罹患率

13～16年度の間で、年少・年中・年長、各クラスで20～30%程度の低下がみられる。

全園児では28%の低下がみられる。

担当者のコメント

歯ッピーキッズ応援団が「セレクト100」に選ばれたことを大変有難く、光栄に思います。この事業が3年間続けてこられたのは、協力して頂いた幼稚園教諭、小学校養護教諭、歯科医師、歯科衛生士の方々と「子どもの歯を守りたい」という共通の目標を持てたからだと感じています。保健師が単独で行う事業には限界があります。今後も、住民にとってより便利で役に立つ事業を展開していくために、色々な分野の方と協力し合うことができればと思っています。

新潟市保健所保健予防課：小児期肥満対策事業～食育の推進～	
〒951-8550 新潟県新潟市学校町通一番町 602 番地1 (TEL) 025-228-1000、(FAX) 025-228-9676 (E-Mail) hokenyobo@city.niigata.niigata.jp (ホームページ) http://www.city.niigata.niigata.jp/	
人口 517,028 人(出生数 4,822 人) 母子保健担当者:事務・保健師・その他(助産師・看護師)、全保健師数 64 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:政令市・特別区(本庁・保健所等)	
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ
事業の背景	遅寝遅起きによる朝食抜きや空腹を感じる暇のない間食, 活動量の不足による食欲不振や便秘など子ども達の生活習慣調査から, 望ましい食習慣形成のための支援体制を再考する必要がある。 加えて, 乳児の肥満が増加傾向にあり, 早急に取り組む必要がある。 (4歳児～5歳児では軽度肥満が高度肥満に移行する)
提案者	その他(健康増進課健康づくり係担当者)
事業のねらい・目標	小児肥満は幼児期後半に始まりやすいことが指摘されている。 幼児期の問題は乳児期の生活習慣の延長線上であることを考えると, 乳児期にさかのぼって生活習慣の見直しの必要があり, 乳児期の食生活状況調査を実施し, 肥満予防と望ましい味覚形成の面から検討を加える。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める
数値目標	なし
事業内容	実施内容 新潟県小児肥満等発育調査(平成11年から毎年, 3～5歳児の身長・体重調査を実施) 乳児期栄養調査(平成15年から, 生後2～3か月の乳児を対象に栄養アンケートを実施) 健診時の栄養指導強化(平成14年から3歳児健診に栄養士が従事) 肥満傾向児のフォローアップ体制の確立(栄養相談の実施, 食生活ボランティアによるおやつ の試作)
	従事者内訳 その他(食生活ボランティア)
事業の評価	1 肥満児の減少 2 地域組織と連携した活動の増加 3 健康教育後のアンケートによって理解を確認する
今後の課題	保育園, 幼稚園とのネットワークを構築し, 朝食の欠食率の減少や食育の効果的な推進
キーワード	母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進

**** コメント ****

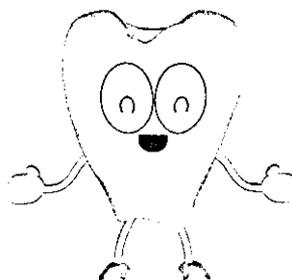
ここに注目！— 事業を開始する上で、地域に存在している問題点について深く考察していることは重要である。それらの問題点について既存の事業で不足していた点を地域組織と連携した活動の増加によって追加している姿勢は高く評価できる。

エビデンスは？— 事業の目的に沿って、数値化が可能な目標を複数検討しており、多面的に評価が可能と考えられる。(ST)



舞阪町健康福祉課 保健センター : フッ素洗口事業		
〒431-0211 静岡県浜名郡舞阪町舞阪 2668-349 (TEL) 053-596-1412、(FAX) 053-592-8879 (E-Mail) soufuku@town.maisakashizuoka.jp		
人口 11,687 人(出生数 100 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 1 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分:市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	舞阪町では、むし歯予防のために歯科指導を実施してきたが、近隣市町と比較してみると罹患率が高く、一向に減少していかない状況であったため、昭和62年度よりフッ素洗口について歯科保健推進委員会を構成し、検討を始めた。結果、平成5年度より小学校・1幼稚園で実施。平成6年より3保育園実施。 結果、学校歯科健康診断等に良い成果が現れている。	
提案者	その他(歯科保健担当者・舞阪町歯科医師会)	
事業のねらい・目標	幼児のうちからフッ素洗口をすることにより、永久歯のむし歯予防と地域歯科保健の向上を図る。 ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	幼児 学童
	実施期間	平成5年4月～平成17年3月 12年計画
	実施内容	歯科医師の処方指示を得て、保育・教育施設において薬剤師がフッ化ナトリウム溶液を作成し、各クラスでフッ素洗口を行なう。 実施する園児・児童については、フッ素洗口についての説明資料及び希望書をつけて配布。希望制にして、実施しない園児・児童については、水によるうがいにて対応する。 ■マニュアル・ガイドラインの作成
	協力機関	保育園 幼稚園 学校 その他(歯科医師会・薬剤師会)
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	歯科医師 歯科衛生士 薬剤師 保育士 教員 養護教諭
	補助金・助成金	都道府県
	事業の評価	学校歯科健康診断の結果から、DMFT指数(一人平均むし歯経験指数)についてみると、ベースラインの平成5年度に比べ、平成14年度はどの学年も大幅な減少率が得られている。なかでも、園児期からフッ素洗口を実施している学年については大幅な減少がみられる。 ※小6(平成5年度4.3→平成14年度0.7)

	<p>■数値目標を評価した</p>
今後の課題	<p>小学生の永久歯においてはその効果が著明に現れている。(むし歯のない者が8割) しかし、一部ではあるが、多発傾向児(永久歯むし歯が9本以上の者・乳歯むし歯が5本以上の者)もいる。 その者に対するフォローも行なっていく。 また歯科領域のみに限定することなく、生活習慣をとおして、保健師・栄養士・関連施設との連携を持ち、継続して観察・指導していく。</p>
キーワード	母子保健 栄養 運動 食生活 歯
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 従来の事業の問題点を正しく受け止め、外部の有識者を交えた委員会を構成した上で、新たに事業を展開した点は非常に高く評価できる。また、集団全体での改善のみで充分とせず、より重大な問題を持つであろうと考えられるグループの存在を的確に把握していることは特筆に値する。</p> <p>エビデンスは？— 具体的な数値目標が設定されており、既に多くの地域で効果が確立されている事業であることから、エビデンスに基づいた評価が実施可能である。(ST)</p>	



野上町保健福祉課 : ミュータンス菌の母子感染予防		
〒640-1121 和歌山県海草郡野上町下佐々1408-4 (TEL) 073-489-9960、(FAX) 073-489-6655 (E-Mail) shimohigashi-m@town.nokami.wakayama.jp (ホームページ) http://www.town.nokami.wakayama.jp/		
人口 8,186 人(出生数 40 人) 母子保健担当者:事務・保健師・栄養士、全保健師数 4 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分:市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	妊産婦・乳児期からの虫歯予防啓発を行い、徐々に乳歯の虫歯は減少してきたが、より一層の改善(虫歯ゼロ)を目指すため、新しいテーマの事業を妊産婦の時から実施していく必要性を感じた。	
提案者	その他(歯科保健推進委員会)	
事業のねらい・目標	子どもの歯をう蝕から守るため、妊婦・乳児の保護者に対し「虫歯菌(ミュータンス菌)は感染する」「感染させている」「予防できる」という啓発を行い、母子感染を予防する。乳歯の虫歯予防。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	あり	
事業内容	対象	乳児 父親 母親 妊産婦 家族
	実施期間	平成 14 年 12 月 ~ 平成 22 年 3 月 8 年計画
	実施内容	①検査の目的を説明。 ②唾液と歯垢を採取し、専用容器に入れ、48時間培養する。 ③結果を個人通知する。 (培養したミュータンス菌・ミュータンス菌についてのパンフレット、母子感染予防の重要性を記入したパンフレットを同封) * デジカメで記録を残し、保存している。 ■既存事業の工夫
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 歯科衛生士 保育士 その他
	補助金・助成金	なし
	事業の評価	毎年度初めに、前年度の歯科健診結果(1歳6か月児健診、3歳児健診、保育所年長~年小の学年別)を集計し、経年的推移をグラフ化している。乳歯の虫歯予防が目標のため、評価は数値で行っている。 ■今後も継続する

今後の課題	啓発活動にはなっているが、妊婦教室への参加者が少ないため事業評価がむづかしい。
キーワード	母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 従来の歯科保健事業とは全く異なる観点から参加者の意識に働きかけようとする点はユニークであり、非常に評価できる。最新の科学的知見を正しく取り入れ、地域住民にわかりやすい形で示し、住民一人一人が実施可能な形の具体的な対応策を示したことも重要である。</p> <p>エビデンスは？— 数値目標による評価を行っているが、課題によっては数値目標による評価が困難となる理由について考察しており、事業の継続によってエビデンスの蓄積が期待できる。(ST)</p>	



大野町役場：福祉保健課 保健衛生係 親と子のあいの広場		
〒879-6441 大分県大野郡大野町大字田中 55 番地の 1 (TEL) 0974-34-2305、(FAX) 0974-34-2821 (ホームページ) http://www.town.ohno.oita.jp/		
人口 5,453 人(出生数 22 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 3 人(母子保健担当保健師数 1人) 区分:市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	少子化が進み、保護者より子供同士であそばせる場がない。近くに子どもがいない等の声が聞かれるようになった。また、児童館・公民館・役場のそれぞれ機関が同様の対象にそれぞれの事業を実施していたのを1本化して効果的な事業展開を図った。	
提案者	母子保健担当者 その他(児童館)	
事業のねらい・目標	<p>保育園に入所していない親子が集い、触れ合う場となる。 その中で親同士が情報交換し、仲間作りをするとともに育児不安の軽減につながる。</p> <p>■住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する</p>	
数値目標	あり	
事業内容	対象	幼児
	実施期間	平成 15 年 4 月 ~ 平成 16 年 3 月 1 年計画
	実施内容	<p>対象を1歳~5歳までの保育園に入っていない親子とし年6回開催 親子遊びを中心に、室内だけでなく川遊び雪遊び(そり)等を取り入れる また、参加者の要望により子育てについての学習会も取り入れている</p> <p>■既存事業の工夫</p>
	協力機関	教育委員会
	従事者内訳	保健師 栄養士 事務職員 保育士
	補助金・助成金	都道府県 市町村
事業の評価	<p>参加する親子が増える ■今後も継続する</p>	
今後の課題	参加者の要望にこたえた内容の検討	
キーワード	<p>親子のふれあい 交流 学習 親子遊び 育児支援 育児不安 ■地域の子育て支援の充実</p>	

**** コメント ****

ここに注目！— 保育園に入園していない児は、保育園などの何らかの施設を対象とした保健事業から漏れることが大半であると考えられる。アプローチが困難な集団を保健事業の対象としようとする試みは非常に高く評価されるべきである。また、今後の広がりも充分期待できる事業である。

エビデンスは？— 参加者数の増加も評価指標の一つではあるが、保育園に入園していない児の総数を分母にして、参加者の割合を算出することも重要なエビデンスである。また、個々の参加者の要望を深く掘り下げることで、集団における数値では評価不可能な問題点を発見できる可能性がある。(ST)



塩山市保健課：小児の事故予防プログラム					
〒405-0042 山梨県塩山市上於曾 977-5 TEL) 0553-33-7811、(FAX) 0553-33-7814 E-Mail hokenfukusisenta@city.enzan.yamanashi.jp ホームページ http://www.ctiy.enzan.yamanashi.jp					
人口 26,587 人(出生数 218 人) 母子保健担当者:保健師、 全保健師数 11 人(母子保健担当保健師数 3 人) 区分:市町村					
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ				
事業の背景	小児の死亡原因の1位は不慮の事故であり、小児保健の重要な課題である。 塩山市でも乳幼児死亡の歴史的経過をみると、「不慮の事故」による死亡が13件あり、 「子どもの不慮の事故を防止し、子どもたちが安全に暮らせる」ことを目指した取り組みを開始した。				
提案者	母子保健担当者				
事業のねらい・目標	子供の健康問題のひとつに、事故があることを認識し、事故の予防法を知り、小児の事故が予防できる				
	■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める				
数値目標	なし				
事業内容	対象	乳児 幼児			
	実施期間	平成 9 年 4 月 ~ 平成 19 年 3 月 10 年計画			
	実施内容	妊娠期:母親学級・両親学級 チャイルドシート着用指導 乳幼児期:すくすく学級(2ヶ月児) チャイルドシート着用指導、乳幼児の事故予防指導 3ヶ月児健診時・事故予防リーフレット(転落、誤飲、やけど)配布と集団指導 誤飲チェッカーの配布と集団指導 7ヶ月児健診時・事故予防リーフレット(お風呂の事故)配布と個別指導 1・6ヶ月児健診時・事故予防リーフレット(家庭の中、外の事故、交通事故)配布と集団指導 3歳児健診時・事故予防リーフレット(転倒、転落、ぶつかる)配布と集団指導 実態把握調査・チャイルドシート着用(3ヶ月児健診時) ・チャイルドシート着用、誤飲チェッカー利用、風呂場での事故、事故・ケガによる病院受診 実態把握、事故経験者のみ事故の詳細(1・6ヶ月児、3歳児、5歳児健診時実施)、 保護者対象の講習会、乳幼児救命講習会			
		■既存事業の工夫 ■調査・研究			
		協力機関	大学・研究機関	消防署	診療所
従事者内訳	保健師	補助金・助成金	なし その他 (H10 初動時母子保健推進特別事業を活用)		
事業の評価	事業評価については、事故の長期的経過(最低10年)をみて評価していく必要がある				

<p>今後の課題</p>	<p>保護者の事故予防の取り組みの実際を紹介。事故予防の情報交換ができる子育てボードを作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット子育てシリーズ NO. 7(チャイルドシート)作成予定。 使用度が低いため、母親の着用指導も合わせて行う、また、交通安全指導員の協力を得る。 ・お風呂の事故予防の取り組みについて検討 ・現在の誤飲チェッカーの使用率が低いため、配布時期、指導内容の検討 ・2～3ヶ月児の家庭訪問時、個々の家庭環境に合わせた事故予防指導の実施
<p>キーワード</p>	<p>小児事故防止 事故予防 ■子どもの事故防止</p>
<p>**** コメント ****</p> <p>ここに注目！— 既存の統計から判明している問題点を的確に捉えている点は非常に重要である。児の発育に合わせて事業内容を構築しており、個々の家庭環境を勘案した指導まで実施されている。本事業の実施にあたっては大きな労力が必要と判断できるが、10年間という長期間の計画であることは特筆に値する。</p> <p>エビデンスは？— 事故の種類は多様にわたり、一つ一つの事故は稀な事象であるために、ある特定の問題に対応するための保健事業と同様の手法を用いて事故の減少について評価することは困難と考えられる。有識者からのアドバイスによる評価手法の開発も一考に値する。(ST)</p>	



岡山県阿新保健所 : 8020運動推進特別事業(330運動推進事業)		
〒718-8560 岡山県新見市新見 2056-1 (TEL) 0867-72-1177、(FAX) 0867-72-8537 (E-Mail) ashin-kenko@pref.okayama.jp (ホームページ) http://www.pref.okayama.jp/ashin/kenko/kenko.htm		
人口 37,000 人(出生数 280 人) 母子保健担当者:保健師、全保健師数 7 人(母子保健担当保健師数 1 人) 区分:都道府県保健所		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	管内の3才児う蝕有病者率は、平成13年度50.7%で岡山県平均34.4%より16.3%高く、平成11年度から13年度は県下保健所管内別においてワースト1位を占めており、むし歯予防の推進が課題である。	
提案者	その他(保健課)	
事業のねらい・目標	地域ぐるみでう蝕予防活動に取り組めるよう歯科保健医療体制を整備し、あらゆる機会に住民の歯科保健に対する意識の向上を図る。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める ■住民が健康のために、より積極的な行動を継続できるように支援する	
数値目標	あり	
事業内容	対象	新生児 乳児 幼児 学童 父親 母親 妊産婦 家族 関係者・関係機関
	実施期間	平成15年7月～平成16年3月 1年計画
	実施内容	「めざせ330, 阿新の子どもの歯を守ろう！」 1. 関係期間との連携 2. 歯の健康手帳の作成 3. 管内市町が効果的なう蝕予防の取り組みができるよう支援する ■既存事業の工夫 ■ネットワークの推進 ■人材育成の強化(研修等) ■調査・研究
	協力機関	保育園 幼稚園 学校 地域のボランティア その他(管内歯科医師会)
	住民参画状況	その他(組織団体を通して住民参画を得る。)
	従事者内訳	保健師 栄養士 事務職員
	補助金・助成金	国
	事業の評価	平成15年度事業で現在実施中。 330の達成を目標としているが、今後開催する会議で目標年等については協議する。
キーワード	母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進	

**** コメント ****

ここに注目！— 歯の健康手帳、また330という標語は斬新。母子手帳の成功に見られるように、手帳を持つことで自主管理、自己認識が促されるかもしれない。また、330 は誰にでも簡単に覚えられ、且つ具体的な目標値として認識されうる。国民運動たる健やか親子 21 の取り組みとしてふさわしい。評価時期、330 の目標達成割合などを設定することで、同取り組みを明確に評価することができる。

エビデンスは？—

*有病率は県の平均に比べると高いようだが、その理由について、何か地域に特有なことが明らかになることによって、より効果的な対策を行うことができるでしょう。(NK)

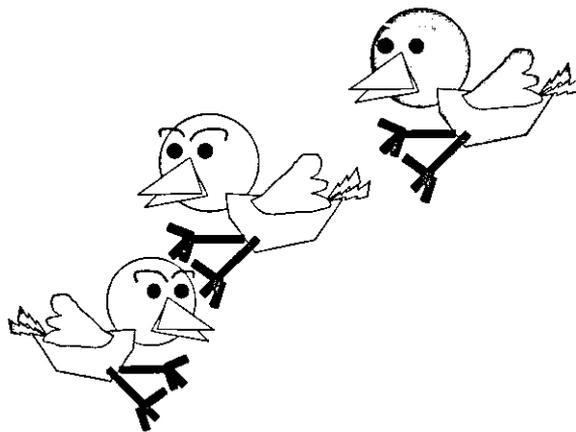


三方町保健センター：妊婦歯科検診と唾液検査		
〒919-1333 福井県三方郡三方町中央 1-5 (TEL) 0770-45-1563、(FAX) 0770-45-9122 (ホームページ) http://www.town.mikata.fukui.jp/hoken/index.html		
人口 9,166 人(出生数 72 人) 母子保健担当者：保健師、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分：市町村		
事業課題	■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ	
事業の背景	当町は県内でも、1才6カ月・3才健診におけるう歯罹患率が高く、母子保健の中では特徴的である。 子どものう歯は、大人からの菌の感染から始まり、大人のうちに対する意識が大きく影響していると考えられるため、妊婦の歯に対する関心を高め啓発を図る。	
提案者	母子保健担当者 その他(町内の歯科医)	
事業のねらい・目標	妊婦の時に、自分の口の中の状況を知ることにより、自分の歯を含め、子どもの歯を守ろうとする意識を持ってもらうことをねらいとする。 ■住民が健康に関する知識、技術を身につけ、動機を高める	
数値目標	あり	
事業内容	対象	妊産婦
	実施期間	平成11年4月～平成16年3月 4年計画
	実施内容	町内の歯科医院にて、妊婦が歯科健診と唾液検査(唾液の質、量、緩衝能、プラークの量、ミュータンス菌、ラクトバチラス菌の量)を調べてもらう。その結果をもとにして、歯科医師はアドバイスをを行う。健診料金は公費負担である。
	協力機関	診療所 その他(歯科医院)
	住民参画状況	なし
	従事者内訳	保健師 歯科医師 歯科衛生士
	補助金・助成金	市町村
事業の評価	初めてこの検査を受けられた妊婦から生まれた子どもたちが現在3歳になってきていることから、3歳児健診結果をもとに評価を考えている。 ■今後も継続する	
今後の課題	子どもの歯を守ろうとする親が増え、実際に行動にうつせるようになること。	
キーワード	母子保健 栄養 運動 食生活 歯 ■妊娠中からの母子歯科保健の推進	

**** コメント ****

ここに注目！— 子どものう歯の一次予防として、妊婦を子どものう歯原因菌の暴露要因ととらえ、そこにアプローチする戦略は、先駆的である。妊婦への教育は児の成育後の、母から児、あるいは他の家族への保健指導とつながることが期待できることから、プライマリーヘルスケアの原則を良く捉えた取り組みといえる。

エビデンスは？— う歯評価に対する唾液検査は既に広く行なわれており、その評価法も確立しているため、唾液検査の使用は妥当と考えられる。(NK)



修善寺町福祉健康課：食育ノススメ推進事業		
〒410-2413 静岡県田方郡修善寺町小立野 38-2 (TEL) 0558-72-9858、(FAX) 0558-72-8638 (E-Mail) t5fukusi@shuzenji.kyogikai.mishima.shizuoka.jp (ホームページ) http://www.shuzenji.kyogikai.mishima.shizuoka.jp/		
人口 17,000 人(出生数 110 人) 母子保健担当者：保健師・栄養士、全保健師数 5 人(母子保健担当保健師数 2 人) 区分：市町村		
事業課題	<ul style="list-style-type: none"> ■思春期の保健対策の強化と健康教育の推進 ■健康日本21に含まれる母子保健に関するテーマ 	
事業の背景	町の事業として、小・中学生への食に関する支援事業が薄かった為、その強化として行った。	
提案者	母子保健担当者	
事業のねらい・目標	<p>修善寺町の子どもが健やかに育つために、子どもを取り巻く家庭、地域、学校等において、保護者及び子どもの食を中心とした環境づくりを支援する。また、生涯にわたる健康づくりの基盤を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 住民が健康のために行動できる機会や環境を提供する 	
数値目標	なし	
事業内容	対象	幼児 学童 思春期 家族 関係者・関係機関
	実施期間	平成 14 年 4 月 ～ 平成 19 年 3 月 5 年計画
	実施内容	<p>事業の核として、連絡調整会議を開催するが、構成員に保護者、地域団体の代表者を加える事により、住民の意見を大きく反映させる。</p> <p>地域住民が子どもの健康を育む為に料理教室等を企画し、地域団体の協力を得て事業を展開する。</p> <p>学校と連携をとり、生活習慣病のリスクの高い児童生徒への個別及び集団支援を行う。</p> <p>子どもが自らの食生活を考えることができるよう、分かりやすい内容で事業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個別支援や集団支援のツール開発 ■ ネットワークの推進
	協力機関	保健センター・保健所 保育園 幼稚園 学校 教育委員会 その他(健康づくり食生活推進員 民生委員 保健委員)
	住民参画状況	計画から参加 実施主体側として
	従事者内訳	保健師 栄養士 医師 養護教諭
	補助金・助成金	国 都道府県